



2026年3月19日

# あすならハイツ恋の窪 2025年度第2回運営推進会議 議事録

## 小規模多機能居宅介護 運営懇談会

あすならハイツ恋の窪  
10:30~11:00

### 1. 運営推進委員

※個人情報の観点より個人名は伏せて表記させてもらっています

<恋の窪1丁目自治会長>	欠席
<大安寺西民生児童委員>	欠席
<三笠地域包括支援センター>	■■■■様
<地域ドクター医療関係薬剤師>	■■■■様(■■■■歯科)
<利用者・家族>	■■■■様
<ならコープ>	
<まちかどネット恋の窪代表>	
ハイツ恋の窪職員	施設長 仲村
各部門管理者	事務長 山尾 (小規模多機能)山村

### 2. 協同福祉会からの報告 (前回の会議以降)

#### ・地域貢献活動

あすならサロン:月6回実施(0と5のつく日)

子ども広場(子ども食堂):週3回(月水金)実施、平均7名程度の参加

ユニバーサル就労の受け入れ

直近のイベント

2月20日:走るデパ地下(商品販売イベント)

3月1日:佐保川近辺の清掃活動に参加

3月15日:春祭り(焼き鳥の提供予定)

#### ・小規模多機能の運営状況

登録人数は前回の会議から変わらず25名ですが3月25日から1名、4月1日から1名の利用開始を予定しており4月には27名の登録になる見通しです。その他にも開始時期は未定ながら利用の意向を確認させて頂いた方が2名いらっしゃるのので近いうちに29名の登録になる見込みです。

4月以降で地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に向けて緊急ショートのご案内をさせていただき、地域で困っておられる方の駆け込み寺としての機能を強化していきたいと思っております。

### 3. 質疑応答と意見交換

三笠地域包括支援センターより

いつも困難事例の受け入れありがとうございます。ケアプランセンターをはじめ定期巡回や小規模多機能が受け皿として機能していて助かっています。とのお言葉をいただきました。

前川様より

介護保険サービスだけでは行き届かない部分があると感じるのでこれからは介護保険外のサービスを併用して生活を支えていくことが必要だと感じる。コープたすけあいの会がそういった機能を担っていければと思います。

#### ・地域の課題

##### ①犬のフンの問題

奈良市のホームページで推奨されている対策:黄色いチョークで丸をして日付を書く飼い主への啓発効果が期待される)

②キリン堂で子ども食堂に来ている子どもが、知らない女性からシールを買ってあげるから TikTok をフォローしてほしいと声をかけられる事案が発生、地域で見守りが必要だと感じた。

##### ③車椅子の貸し出し

障害を持つ 10 代の方への車椅子貸し出しを実施  
社会福祉協議会で対応できなかったケースに対応

#### ・春のあすなら学習会開催予定

開催概要

開催期間:4 月～6 月、全 6 回開催

開催日程

4 月 10 日(木) 4 月 30 日(木)

5 月 13 日(木) 5 月 26 日(木)

6 月 13 日(木) 6 月 21 日(木) ※こども向けにサツマイモの植え付けを企画

#### ・次回会議日程

次回開催日:5 月 21 日(木)10 時 30 分

来年度も 2 ヶ月に 1 回、奇数月の第 3 木曜日に開催予定



地域との連携

年1回の地域向け学習会の開催

地域の困りごとへの対応(白線の引き直しなど)

### 3. 定期巡回サービス

#### 1. 運営体制の大幅な変更(2024年11月より)

新サービス開始: 従来のショートステイを閉鎖し、11月から「小規模多機能型居宅介護(以下、小多機)」を新たに開設。

デイサービスの縮小: 1日型から、平日午後のみ半日型デイサービスに変更。

会議の目的: 小多機は2ヶ月に1回の会議開催が義務付けられており、地域住民や家族の意見を運営に反映させるための「外部評価」の場として実施。

#### 2. 小規模多機能型居宅介護の現状

利用状況: 定員29名に対し、現在は25名が登録(入院中含む)。

サービスの強み: 「通い」「泊まり」「訪問」を一つの事業所が一体的に提供。ケアプランも施設内で作成するため、利用者の体調や家族の都合に合わせた柔軟な調整が可能。

制度の利点: 月額定額制(包括報酬)のため、介護保険の限度額を気にせず、必要に応じた頻度でサービスを利用できる。

#### 3. サービス自己評価のポイントと課題

11月の開設から現在までの振り返りが報告された。

評価されている点:

ICT(ケアコラボ)による迅速な情報共有。

入浴時などの1対1の時間を活用した、利用者との深いコミュニケーション。

急な体調変化や家族の要望に対する柔軟な対応。

今後の課題:

開始直後のため、職員間での利用者情報の周知にまだバラつきがある。

地域の社会資源(近隣の協力者や他サービス)の把握と活用。

脱衣所でのプライバシー配慮や、成年後見制度への理解向上。

認知症による「外への歩き出し(徘徊)」に対し、施錠に頼らずGPSや付き添いで対応する体制の工夫。

#### 4. 質疑応答と意見交換

ケアマネジャーの交代について:

小多機を利用する場合、従来の居宅ケアマネジャーから「施設専属のケアマネジャー」への交代が必要。

管理者(山村氏)が担当予定だが、制度上必要な特定の研修が年1回しかなく、受講待ちの状態であることへの説明と理解を求めた。

利用者家族からは「これまでのケアマネさんと別れるのは寂しいが、現場を熟知している人が担当してくれるメリットは大きい」との意見が出た。

人手不足と経営:

業界全体の人手不足や、訪問介護の報酬改定による経営の厳しさについても言及され、地域密着型サービスとして存続していく重要性が確認された。

以上

